平 成 ２０年 ７ 月

[配 布 先 ： 全 組 合 員]

市 場 情 報

≪地区の需要動向≫

東　北

一日も早い復興を願う

６月１４日の宮城・岩手内陸地震ではご心配をお掛けいたしました。仙台地区は、大きな被害も無く助かりましたが、震源地の栗原地区では多くの方々が被害にあわれました事、心よりお見舞いを申し上げます。一日も早い復興を願うものです。

東北はこれから、自動車関連、ＩＴ関連等、大型物件が動き始めますが、地場企業の設備投資は、改正建築基準法、鋼材の高騰等の影響で減少しており、銀行の融資額も減っているとの事で、地場の中小ゼネコンにとって大きな負担になっています。

ファブの稼働状況もＨクラス以上は非常に多忙であり、Ｍクラス以下では地場ゼネコン相手中心でのファブは苦しい状況の様です。

鋼材タイトそして価格高騰の状況がまだまだ続きそうですが、この様な状況が続くならば、いつか大きな反動が来るのではと懸念されます。

（ＪＦＥ 鋼材・湊和志）

東　京

適 正 な 加 工 費 確 保 が 課 題

梅雨の真只中。気候も気持ちも晴れません。
今年度の橋梁鋼材発注ベースは 56 万トン、鉄骨の予測は 640 万トンと聞きます。橋梁 FAB は大量に契約残を抱え年内一杯は相当高いレベルの発注量を持っており、鉄骨も中小型案件は落ち込みがあるものの、大型物件は復活し年内一杯はフルレベルの状態と聞きます。

ところが、メーカー系シャーにとって最高の受注環境が整っている状況であるにも拘わらず計画通りに生産量が上がらず充分な利益確保がままならない状況になっています。

一つには仕事が身近にありながら材料入手難によって受注チャンスを失っている事、一つには加工費が定額の為、材料価格が上がるほど歩損分が増大し加工費を圧迫している事、一つには輸送費、消耗品等の値上りによって採算を悪化させている事であります。

冷鉄源の価格アップにより救われている面はありながらも加工費全体を好転させるほどには至っていないのが現状です。

材料の値上げ分と歩損を中心としたコスト増加分を如何に切板単価に転嫁していくのか、適正な加工費を如何に確保していくのか、仕販先同時に理解して貰う様にしていかなければならない状況にあります。

更に、3Q以降の母材価格が不透明であること、数量面で見ると来年度の橋梁に関しては一般財源化によって橋梁全体の 1／3 と言われる地方自治体発注の数量がどの様になるのか、鉄骨に関しても来年度はグレーな状況と聞くにつけ、今後の見通し、対応に関して非常に不安を抱かざるを得ません。機能を有し、お客様からの信頼を得る難しさを痛感しています。

（山惣熔断・根本泰伸）

東　京

秋　需　期　待

昨今各地で天災に見舞われておりますが被災をされた方々には心よりお見舞い申し上げます。

レーザ加工業の現状ですが、弊社では好調な建機などは受注しておりませんので建機以外の話となります。今年に入り 3 月までは値上げ前の仮需などで忙しい毎日でしたが、4 月より稼働率が下がり 5 月に入ってからは今年最低の稼働率でした。価格は何とか転嫁できているので売り上げは維持しましたが、売り上げが同じと言うことは出荷量が減ったということになります。業種で見ますと産機関係は輸出頼みで何とか堅調。自動車部品関係は国内販売が落ちていますがこれも何とか堅調。ＩＴ部品製造装置関係は一時の勢いは無く秋口に期待。原子力発電関係も秋口より海外物件で期待。建築関係は相変わらず不調。特にＰＣコンクリート型枠関係は材料を多く使う割には適正単価が取れておらず、与信要注意。

顧客からの見積りなどを見ていると、お盆明けまではあまり期待できず、秋需をどう取り込むかの行動計画を練りながら、もう少し我慢の日々が続くと思います。

（インスメタル・福井英人）

東　海

自 然 と 資 源 に は 勝 て ず

さて原稿をと思ったとき、中国は四川大地震の報道も終わらぬ内に岩手・宮城地震等、自然災害とはいえ身の凍る思いです。

お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、心より哀悼の意を表します。

被災地の皆様方には心よりお見舞い申し上げます。

又、人災とはいえ秋葉原殺傷事件等、通常では考えられない事件等を考えますと、何故この様な社会になったのかと理解できない事ばかりです。

さて、弊社は建材切板を主に扱っているのですが、Mグレード の一部、Hグレード の方々の受注状況は概ね年内受注されている様に思われます。

価格についても、メーカー値上げ、スライドでご理解頂ける状況にあります。我々、切板についても同じ様な動きをさせて頂けると思っております。ただ、１００～５００t 程度の中小物件の出件が特に少なく、建築確認申請も極端に少なくなっております。鋼材店売りと同じく４、５、６月と月を追うごとに悪くなってきております。

又、厚板母材については高炉、電炉を含め厳しさは相変わらずです。７～９月、１０～１２月も月を追うごとに厳しくなってきております。受注物件に対する、母材引当に四苦八苦と言う状況はしばら続きそうです。心して対処しなければと考えております。

（熱金鋼業・山村熹）